

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	小樽市桜1丁目27番地53号 (電話) 0134-54-7360		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年2月8日

【情報提供票より】 (20年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 12年 6月 7日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	47 人 常勤34人, 非常勤13人, 常勤換算22.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000円 暖房(10~4月)6,500円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 35,000 円		

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名	
要介護1		2	要介護2		5	
要介護3		7	要介護4		7	
要介護5		6	要支援2			
年齢	平均	84歳	最低	61歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西病院、済生会小樽病院、三ツ山病院、市村歯科クリニック、たかむら歯科、常見医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームふきのとうは小樽市郊外の高台にあって、市街と石狩湾が一望に見渡せる、景観に恵まれたホームである。自然の豊かな、閑静な住宅地に囲まれ、近くに大小二つの公園があって散歩には好適である。平成12年に、賃貸アパートを改造して3ユニットのホームとして開設されたが、隣接する2ユニットの新設棟と併せて、職員の交流や施設の共用など、業務の効率化にメリットを出している。多くの市民ボランティアを迎え入れ、近くの小・中学校との交流も図るなど、地域との融合には積極的に取り組んでいる。職員の教育訓練には多くの機会を提供して質の向上に努めており、職員同士および管理者との信頼関係は厚い。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 住宅改造型建物であるための構造的な難点は、ソファの配置や装飾などでの工夫や努力で改善が図られている。時計は複数設置して、どこからでも見えるようにした。緊急時対応マニュアルはより充実したものに改訂された。行政との連携についてはなお強めるよう、努力中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各職員の業務上の都合もあって、今回は全員参加とはいかず、主だった職員による取り組みとなったが、予め説明を受けた上で、ユニットごとに討議し、自己評価を作り上げた。また、その中からいくつか問題点も見つけ出し、業務改善へと結びつける努力も行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開催され、地域代表としての町内会関係者、民生委員、各ユニットごとの家族代表と事業者側の担当者が参加メンバーとなっている。議題は行事の内容、食事の内容、ホーム内での生活の様子を中心にして話し合い、出された意見は日々の運営に生かされている。また、災害時に地域住民からの協力が得られるよう、要望も行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時および電話をする機会などに積極的に意見を聞きだす努力をし、率直な意見が言いやすいような雰囲気作りが心にかけている。出された意見は記録にとどめ、全体会議の場で改善のための話し合いを行っている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入して活動に参加しており、老人会との交流についてもどのようなことが出来るか、協議中である。地元のお祭や行事には積極的に参加している。また、近くの小学校、中学校との交流もあり、文化祭に参加したり、手紙の往復をしたりして、地域との連携は活発である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初以来、家庭的環境の中で「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」をモットーにした、独自のケア理念を作り上げているが、地域の中で、という内容が盛り込まれていない。	○	介護保険法の改定を境に、グループホームへの期待がよりいっそう高まる中で、地域とのつながり、という内容も盛り込んだ、新たな理念の作成を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念が掲示され、周知・共有が図られている。折に触れ、具体的なケアについて話し合う中でも理念を確認しながら検討するようにしている。	○	定期的なミーティングの中で、理念の共有をいっそう強めたいとの意向なので、日々の業務や方針策定の際に理念がなおいっそう生かされるような取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して活動に参加しており、老人会との交流についても協議中である。地元のお祭や行事には積極的に参加している。また、近くの小学校、中学校との交流もあり、文化祭に参加したり、手紙の往復をしたりして、地域との連携は活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は全員参加とはいかず、主だった職員による取り組みとなったが、予め説明を受けた上で、ユニットごとに討議し、自己評価を上げた。また、その中からいくつか問題点も見つけ出し、業務改善へと結びつける努力も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開催され、町内会関係者、民生委員、家族代表と事業者側の担当者が参加メンバーで、行事、食事など、ホームでの生活を中心に話し合い、出された意見は日々の運営に生かされている。災害時の協力依頼も行われている。	○	参加メンバーに地域包括センター、行政の担当者も加えることを検討するよう、期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所には業務の用件で訪問するほか、市の担当者も同席する同業者の集まりで交流を行っている。自己・外部評価を市へ提出して実情を伝え、市の担当者が指導に来訪した際には率直な情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「ふきのとう通信」は、紙面の半分でホーム全体の生活ぶりや話題を伝え、残りの半分で個人別の状態、暮らしぶりを伝えている。健康状態については看護師が月に数回、電話で連絡している。毎月金銭出納簿のコピーと領収書を家族宛に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時および電話をする機会などに積極的に意見を聞きだす努力をし、率直な意見が言いやすいような雰囲気作りに心がけている。出された意見は記録にとどめ、全体会議の場で改善のための話し合いを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係に配慮して、基本的に事業所内での職員の異動は行っていない。新人職員が入る場合は利用者にきちんと紹介してからケアに当たっている。退職する場合は、ことさら利用者には説明することはない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に新人研修、3ヶ月の見習期間終了時にさらに研修を受ける。その後は継続的に年に数回以上の外部研修を受けている。受講者は報告書を提出して、内部研修に役立てている。さらにユニットごとに毎月内部研修が行われる。現場の実務の中で、適宜、技量のレベルに応じた実技指導が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市のグループホーム協議会に参加して、市の職員も交えた研修会などで交流を図っている。また、近隣の同業者と、それぞれが主催する研修会に相互訪問するなどして、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅や病院を訪問し、面談して馴染みの関係を作り、また、見学に招いてよく納得した上で利用開始になるよう努めている。利用開始当初は家族に頻繁に来訪してもらう、職員がよく話しかける、好きな音楽をかける、などの工夫で徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念である「一緒に」をモットーに、利用者、職員ともども日常生活の役割を分担し合いながら協同の生活を築いている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、多くを学ぶように心がけており、祭の踊りや縫い物などを教えてもらうこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	よく耳を傾け、利用者の表情や行動をよく見守ることによって、本人が表現しにくい、真に望むことを把握するように努めている。昔の話を持ちかけると、それをきっかけに思いを語りだすことが多いので、そのような工夫もしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族、医療機関と話し合いを行ってアセスメントを作成し、現場職員とカンファレンス、モニタリングを行い作成している。作成したプランは、利用者の状況により、直接目を通してもらったり、解りやすいように職員が説明して確認をしてもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には年2回の見直しを行っているが、毎月ミーティングを行い、状態が変化した時は、期日前であっても新たに介護計画を作成している。入退院時も、ミーティングを行い、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況や重度化に対応できる医療連携体制を整え、本人の状態に合わせて、通院等を回避し訪問診療で対応している。運営推進会議で出された、地域の人からの相談に対して助言を行ったりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置し、常に利用者の健康管理を行っている。訪問診療での往診や、利用者のかかりつけ医への通院に同行している。平成19年9月から医療連携を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族と相談しながら、重度化や終末期に向けたケアについて話し合いをしている。昨年の医療連携を行った時点で、意向確認書（事前確認書）を作成し、終末期に向けて書面で方針を共有している。体調の変化の状況により、その都度、意向確認書を見直し書類を作成している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時等に職員の意識の向上を図り、プライドを傷つける事がないように配慮している。利用者の家族に関する話などは、居室などで話をしている。インターネットで配信している「ふきのとう」通信の写真掲載に関しては、家族に書類で確認をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、利用者の希望を取り入れ対応している。1日の流れは決まっているが、食事時間などは、個々の体調や状況に応じて臨機応変に対応し、無理強いしないようにしている。希望者に対しては、できる限り対応して外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調に合わせて、刻み食やミキサー食などを取り入れている。食事は、職員も同席し、会話をしながら食事を楽しんでいる。月1, 2回は、利用者自身に芋団子や南瓜団子などを作ってもらい、おやつを楽しんでもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、昼食後から夕方まで設けており、週2回以上を目標に体調に合わせて入浴を行っている。車いすの利用者は介助面で曜日を決めているが、他の利用者は、希望があればいつでも入浴可能な状態になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、ズボンの裾上げなど、利用者の生活歴に合わせた役割を見だし率先的に行っている。おやつ後に、棒体操やゲームをして楽しんだり、「活き活きホール」でカラオケやゲートボールなどのレクリエーションも行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や身体状況に合わせて、近くの若竹公園に散歩に出かけている。春には、公園にお花見に出かけたり、ウイングベイに車で買い物に出かけたりしている。	○	季節に応じて、外食や水族館などの施設見学、買い物などの外出機会を増やしていきたいという事なので、今後一層の定期的な外出支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターに出るドアにチャイムを設置し、利用者の出入りの確認をしている。利用者が外出しそうな時はさりげなく声かけをしたり、一緒に外に出て対応している。日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、職員が常に目を通すようにしている。防災センターで行う避難訓練の講習会に年2回職員が参加している。運営推進会議を通して、地域住民に協力を得られるように働きかけている。	○	現在、グループホーム内において避難訓練が実施されていないため、消防署の協力を得て避難訓練、消化器の使用方法などの訓練を行う意向があるので、早期に実施されることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量を個人記録ノートに記入し、不足している利用者には声かけをして摂取をうながしている。食事の献立は、食事担当の栄養士がたてている。1日1回は牛乳を摂取するようにし、利用者の身体状況に応じて、主治医の指示を仰いで対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が利用者と共に、季節にあったちぎり絵や折り紙などで壁面を制作し、季節感が感じられるように工夫している。家具の配置も利用者と一緒に考え、居間には大きなソファが置かれ、利用者がゆったり座ってくつろげるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた家具、仏壇などが持ち込まれていて、馴染みの空間で安心して生活できるように配慮している。カーテンや敷物なども好みの物を使用している。希望により、テレビや物入れ、テーブルなどを無料で貸し出しをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。